

科目名	ボランティア論					単位	2.0
担当教員	中神 洋子						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	1	授業番号	3409

●授業のテーマ

ボランティアとは何か？－“ボランティアの世紀”を作るために…

●到達目標

- 1) 「ボランティア」や「ボランティア活動」についての自分なりの考え方が持てるようになる。
- 2) ボランティア活動から得られる喜びはもちろんのこと、困難な側面も実感できる。
- 3) 自分がボランティアとどう向き合いたいかを考えられるようになる。
- 4) 行動する勇気や充実感を学べる。
- 5) 様々な人と協働する喜びや醍醐味を経験できる。

●学習内容(授業概要)

1997年11月の国連総会で、123カ国の世界各国の代表と、多くのボランティア団体によって提案された「ボランティア国際年」。21世紀を私たち一人ひとりの力を結集し、“ボランティアの世紀”に…と、2001年以来様々な国では地道な努力が続いている。

日本でも1995年の「阪神・淡路大震災」の時には、全国各地から若い人々を中心に、140万人を超える人々が被災地へかけつけ、日本における「ボランティア年」とも言われるゆえんである。物資を送ったり、募金をしたりと、“後方支援”に善意を注いだ人々を加えると、その数ははかりしれない。

こうした市民の力は、その後、日本や世界で次々におこる大きな災害時にいかされていく。特に2011年3月11日に東北を中心におこった未曾有の大震災・大被害は、私たちの記憶に新しい。この時も多くのボランティアが日本中、そして世界の様々な国からかけつけた。

この講義では、私たちの身近にあるボランティアをはじめ、世界の国々のボランティアの実態を調べ、ボランティアとは何か、なぜ今ボランティアなのか、ボランティアの心とは何か等を共に考えていく。更に自分たちでゼロから出発し、道をつくっていく難しさと楽しさを味わうために、グループによるボランティア体験を企画・実践し、その報告を通して、お互いの経験をわかち合う。

●学習内容(授業計画)

1. ボランティアとは何か？
2. ボランティア活動の歴史と現状
3. 日本のボランティア事情と現状
4. 様々なボランティア活動（福祉関連・人権・教育・地域等）
5. ボランティア各国事情（アメリカ）
6. ボランティア各国事情（アジア）
7. 「阪神・淡路大震災」や「東日本大震災」などに学ぶもの～日本の実態
8. 地域におけるボランティア活動のあれこれ
9. 環境ボランティア
10. 国際ボランティア～国連とボランティアの活動
11. やってみようボランティア～グループ体験
12. ボランティア体験報告
13. ボランティア精神～よりよく“生きる”
14. “ボランティアの世紀”を作るために
15. ボランティアの発展に向けて～今後の課題と挑戦

●準備学習・事後学習の内容

準備：毎回のテーマごとに関連した情報や周辺についての下調べをする。

事後：各テーマに関するコメントやその他の感想をまとめ、提出する。

●成績評価方法・基準

平常点（授業への出席・積極的な参加、小レポート）50%、ボランティア体験（グループ別）とその報告発表 30%、前期試験（レポート）20%

●テキスト（必携）

使用しない。

●参考文献／その他

適宜指示する

●履修上の注意

国際・社会貢献実践コースを関連資格等を視野に入れている学生は、必ず履修すること。